

## 科学技術の潮流

第六章 破除開學單曲十八禁

64

人スマートロボットが消毒を行い、パトロールロボットが検温を行った。杭州市で導入された後、中国全土に普及した。

コロナ収束貢献  
人工知能（AI）やビッグデータ（大量データ分析技術）が導入され、手作業で何度もくり返す業務が自動化され、効率化が図られています。

時、全世界は武汉で初めに確認された新型コロナウイルスは、その後中国各地でも流行し、かつ厳重に実施された。中国政府は、トップダウンで、医療現場では、無告・隔離・治療が迅速に実施され、感染者の発見・報告が徹底されるなど、感染拡大を防ぐための対応がなされた。

ノダウンによる感染拡  
域・感染者の徹底し  
隔離、厳しい外出・移  
動の制限により感染拡  
大を早期に封じ込めら  
とされる。



科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センター 吉田 裕美  
フェロー（海外動向ユニット）

# 中国、デジタルインフラ構築

パンデミックの早期  
収束に貢献したのは、  
中国のデジタルインフ  
ラだったと言われてい  
る。感染症対策には、

早稻田大学 大学院人間科学研究科 博士課程単位取得後満期退学。専門は移民研究及び社会言語学。岡山大学で講師、ユニセフ東京事務所、在ノルウェー、日本国大使館、国連大学勤務を経て、20年から現職。

新型インフラ投資	
新インフラ投資分野	投資額
5Gインフラ	2兆5,000億元(38兆円)
A I	2,000億元(3兆円)
ビッグデータセンター	1兆5,000億元(23兆円)
I o T	6,500億元(10兆円)
超高压送電システム(UHV)	5,000億元(8兆円)
高度道路交通システム(I T S)	4兆5,000億元(69兆円)
電気自動車用充電スタンド整備	900億元(1兆4,000億円)

中国電子情報産業発展研究院(China Center for Information Industry Development<CCID>)「新基建白書」より

はハイテク分野に特化した新たなデジタルインフラ構築への超大型投資を表明した。2018年から実施されて、度注目され、5月の全国民代表大会（日本）の国会に当たる）で推進強化が発表された。車用充電スタンド整備システム（UHV）、高度道路交通システム（ITS）、電気自動車（EV）充電施設、超高压送電網、新世代技術の七つ。25年までに投資額は約10兆円（1兆5千億円）と想定される。

投資額  
5,000億元(38兆円)  
2,000億元(3兆円)  
5,000億元(23兆円)  
6,500億元(10兆円)  
5,000億元(8兆円)  
5,000億元(69兆円)  
元(1兆4,000億円)  
formation Industry De  
ラ施設のア  
0兆円)が見込まれ  
マート化、民間投資を含めると17  
科学技術イ  
ノベーションに上るとの試算もあ  
ン施設への  
る。

投資に重点が置かれている。対象分野は、第5世代通信（5G）、AI、ビッグデータセンター、IoT（モノのインターネット）などである。常に重要な投資であることは間違いない。

新基建の対象分野は、15年に発表された中国の製造業の政策「中国製造2025」の重点分野と重なり、「世界の製造強国の中間入り」といって「戦略実現に向けても非常に重要な投資であることは間違いない。